



# これまでの学びから見えてきたもの

「学校における外国人児童生徒に対する教育支援に関する有識者会議」第4回

## ～過去から現在、 そして未来へ繋がる教育～

静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科  
COLORSメンバー代表

宮城ユキミ  
Cinthia Yukimi Miyagi



# 1 経歴

- ブラジル、サンパウロ州生まれ
- 2008年、10歳の時に家族と来日
- 来日目的は出稼ぎ、3年のみ滞在予定だったが、家族も日本に馴染み、現在11年目
- 母方：日系ブラジル人2世、両親日本人
- 父方：日本生まれ、ブラジル育ち
- 日本の公立の小中高で教育を受け、現在に至る
- 4月から日本企業へ就職



## 2 小学校時代

- 来日後、小学校6年生に編入
- 習字、音楽の授業、給食、掃除など様々な文化の違い
- 日本語は全くできなかつたため、国語と社会の授業で「取り出し」スタイルで1から日本語を学んだ
- 毎日出る宿題（本読みカード、書き取り）はクラスのみんな同様に行い、提出していた

### 3 中学校時代

- 日本語教室へ通うことを勧められるが、断った  
理由：午後の授業を休まなければならないため  
自分にとって、他の人と「特別すぎる扱い」は嫌だった
- 部活動で日本の上下関係、敬語、先輩後輩の概念を学んだ
- 日本語を覚えていく一方で、使用頻度が減少した母語  
ポルトガル語の衰えを感じた
- それを受け、ブラジル人学校へ通い、日本の高校へ進学  
しない予定だった

## 4 高校時代

### ➤ 「日本の高校に進学しないのはもったいない」

中学校の三者面談の際、当時の担任からポルトガル語が学べる高校の存在を知る

- ・ 浜松市立高等学校 インターナショナルクラス

### ➤ それ以降、合格するために必死で勉強、無事合格

### ➤ 自分と同じような境遇の仲間に出会う

### ➤ 進学を果たした自分たちの存在の希少さを知って、 自分の経験を活かしてできることがあるのでは？と思い、 大学進学へ

# 5 大学進学へ

## ➤ 大学進学の大きな壁：

センター試験：日本人と同じ土俵で戦えるか？

入学費、授業料：奨学金情報、外国人でも借りられるのか？

➤ 先輩や学校の先生などから様々な情報を得て、現在の大学へ進学

➤ 大学では、「自分にしかできないこと」をモットーに様々な活動に携わる

## 6 活動

- 中学生の学習支援
- 外国籍児童就学前学校体験教室
- 浜松国際交流協会主催  
「第3回グローバルフェア若者企画 ～RESTART～」  
「78ヶ国の浜松市民が大集合！？未来はみんなでつくる！」
- Festa Julina na SUAC を開催
- COLORSの立ち上げ
- III Fórum Educação Japão Brasil 2014 “O Futuro Da Educação Dos Brasileiros No Japão”（名古屋開催ブラジル教育フォーラムで発表）

# ✧ 自ら企画・実行

## ✧ Festa Julina na SUAC

- ✧ 「ブラジルの伝統的な祭りを大学でやってみたい」  
ブラジル人学生の声から実現
- ✧ 実行員メンバー25人中8人が  
ブラジル人

誰かが企画したイベントに参加  
するのではなく、  
自分たちで企画実行し、  
自分たちの仲間を呼ぶ



## ✧ COLORS

- ✧ 浜松周辺で活動する外国に  
ルーツを持つ若者グループ
- ✧ 現在の主な活動：  
出張カラース

高校へ出張し、  
自分のルーツ、日本での暮  
らし方、進学・就職など  
アクティビティを通して  
高校生へメッセージを発信

# ✧ 親への啓発の必要性

- ➔ ブラジルで育った自分の両親は、  
様々な「日本の制度」を知らない
  - ⇒部活動 夜遅くまで、土日の練習への理解
  - ⇒受験 「受験準備」進学校、定時制高校への認識の違い  
ブラジルでは、「進学校」は日本との認識が異なり、就職をメインとする学校があることを知らない保護者が多い。  
「定時制」は働きながら勉強ができるとして、一般的である。
  - ⇒就職 「新卒ブランド」「履歴書」  
日本での就活を経験していない保護者は、子どもへの指導、アドバイスが乏しくなる
- ➔ 上記のことを経験した  
親が他の親への情報を提供・収集する場が必要

# ✧ 自分のルーツを認めてほしい

- 特別扱いは“外人”扱い、  
でも自分のルーツを認めてほしい  
✕「外国人だから、宿題をやらなくてもいい」ではなく、  
「日本語もポルトガル語もできてすごいね！」に。
- 「みんな同じ」中で、一人だけ特別扱いされると、  
外国人である事や自分のルーツを隠してしまう
- 違う文化、ルーツを持っている事に誇りを持ってほしい
- ただし、外国にルーツを持つ子ども、若者みんなが  
母国の言語、文化を知っているとは限らない

# ✧ 母語、継承語の大切さ

## ➔ 就職活動を経て

「ポルトガル語は話せますか？」とよく聞かれた  
⇒言語へのニーズもある

## ➔ 親とのコミュニケーション、アイデンティティはもちろん、 21世紀のグローバル化時代におけるバイリンガルはニーズが高い！ しかし、日本生まれ、日本育ちが増える中、 母国の言葉（継承語）を話せる子どもは少ない

## ➔ **母語、継承語支援を増やす必要がある**

NPOや地域との連携によって、浜松市などで行なわれている  
バイリンガルな人材は日本にとっても、  
大きな資源になるのではないか